

研究・調査報告書

報告書番号	担当
338	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
<p>Lifetime and baseline alcohol intake and risk of cancer of the upper aero-digestive tract in the European prospective investigation into cancer and nutrition (EPIC) study 生涯およびベースライン時の飲酒と上気道および上消化管の癌リスク : the EPIC study</p>	
執筆者	
Weikert C, et al	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Int J Cancer. 2009 Jul 15;125(2):406-12.	
キーワード	
コホート研究、疫学、扁平上皮癌、食道、喉頭、口腔、咽頭	
<p>要 旨</p> <p>目的： 最近のアルコール消費は上気道および上消化管の扁平上皮癌 (SCC) の確立された危険因子であるが、生涯の飲酒歴と SCC リスクの関係は確立されていない。</p> <p>方法： アルコール消費歴は the European prospective investigation into cancer and nutrition (EPIC) の 271,253 人の参加者で利用可能であった。2,330,381 人年で、392 人の SCC (男性 279 人、女性 113 人) が発症した。性別に生涯のアルコール摂取と SCC リスクについて喫煙を含む潜在的な交絡因子で調整した Cox モデルで検討された。</p> <p>結果： アルコールを 0.1-6.0 g/日を飲む男性に比べ、SCC を発症する相対危険(RR)は 30.1-60.0 g/日で 1.65 倍 (95%信頼区間(CI):1.00-2.71)、60.1-96.0 g/日で 2.20 倍 (95%CI:1.23-3.95) 、>96.0 g/日で 4.63 倍 (95%CI :2.52-8.48)、飲酒中断者で 4.14 倍 (95%CI:2.38-7.19) で有意な上昇を認めた。これらのリスクはベースラインのアルコール摂取量で解析した時と大きくは変化しなかった。生涯に 0.1-6.0 g/日を飲む女性に比べ、>30g/日を飲む女性ではその RR は有意に上昇した(RR 6.05、95%CI:2.98-12.3)。同じカテゴリーのベースラインのアルコール摂取では RR は 3.26 (95%CI:1.82-5.87) であった。男性に比べ女性では生涯のアルコール摂取と SCC リスクにおいてより強い関連を認めた (交互作用:$p=0.045$)。</p> <p>結論： アルコール摂取と SCC との強い用量反応関係は、飲酒は生涯を通じて上気道および上部消化管の SCC の重要な危険因であることを強く示している。</p>	